



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	北海道大学植物園植物標本庫（SAPT）菅原繁藏コレクションのタイプ標本
Author(s)	加藤, ゆき恵
Citation	北大植物園研究紀要, 12, 85-89
Issue Date	2012-12-11
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/50925
Type	departmental bulletin paper
File Information	BBG12_002.pdf



北海道大学植物園植物標本庫 (SAPT) 菅原繁蔵コレクションのタイプ標本

加藤ゆき恵ⁱ

はじめに

2011年に、北海道大学北方生物圏フィールド科学センター植物園植物標本庫 (SAPT) に収蔵されている菅原繁蔵コレクションから1種の植物標本がタイプ指定された。また、筆者が植物園に在籍していた2011年度に菅原コレクションを整理した際に、タイプ標本である可能性が高いと考えられる標本が1点確認された。本稿ではこれらの標本について報告する。

シレトコアザミ *Saussurea shiretokoensis* Kadota ex Sugawara について

シレトコアザミは菅原繁蔵が『樺太の植物』(菅原 1937a) で報告し、『樺太植物圖誌』第4巻(菅原 1940) で特徴を記載した「新種」で、南サハリン(南樺太)の北知床半島に産するキク科トウヒレン属の草本である。しかし、菅原によるシレトコアザミの記載(菅原 1940: Fig.1) は和文による特徴記載のみで当時の国際植物命名規約に基づいておらず、長年裸名の状態であった。この「新種」について、2011年に国立科学博物館植物研究部の門田裕一博士が北大植物園の菅原コレクションの標本を検討し、シレトコアザミを種として正式に記載した(Kadota 2011)。

菅原(1940)によるシレトコアザミの「記載」には標本番号13933が引用されているが(Fig. 1)、この番号は現在北大植物園の菅原コレクションの5点のシレトコアザミ標本につけられている番号(22975 ~ 22979)とは一致していない(13933の番号はマメ科ムラサキウマゴヤシにつけられている)。この標本番号の不一致は、菅原コレクションが北大植物園に移管される前、北海道教育大学函館校(整理当時は北海道学芸大学函館分校)に保管されている時にシダ植物から順番に整理された際、『樺太植物圖誌』の番号とは無関係に分類順に番号が付けられ(生物学教室 1959)、それが現在のコレクション番号となっていることによる。そのため、菅原が引用した「13993」(昭和2. 8. 11 採集。於、北知床半島、舟越草原地、2点)の標本がどの標本に該当するか現在は分からないのである。また、SAPTの菅原コレクションに収められている標本は「1927年8月10日、北知床舟越(3点)」「1927年8月10日沃内」「1927年8月19日馬郡潭」のもので、1927年8月11日採集のシレトコアザミ標本はSAPTには収蔵されていない。そのため、Kadota(2011)は記載内容に最も適合する「1927年8月10日、北知床舟越」の標本1点(S. Sugawara 22976)をホロタイプ(正基準標本)に指定し、その重複標本2点(S. Sugawara 22975, 22977)をアイソタイプ(副基準標本)としている(Fig. 2)。

なお、SAPTに収蔵されている菅原繁蔵採集の未整理標本の中に、標本番号と種名が『樺太植物圖誌』と一致するイネ科標本があることを2011年に確認したが、この標本は新聞紙に挟まれた状態で標本ラベルはなく、採集情報は新聞の表面に書かれているのみであった。また、『樺太植物圖誌』1巻(菅原 1937b)には、新聞に挟まれた状態の標本群の前に座る菅原の写真が掲載されており、当時は未添付状態で標本を保管していたと推察される。そのため、現在の菅原コレクションに付されている標本ラベルは、北海道教育大学函館校で新たに標本番号をつけて整理された際に作られたものと考えられる。

コウヤグミ(ヌマジリグミ) *Elaeagnus numajiriana* Makino について

コウヤグミ(ヌマジリグミ)は牧野富太郎により新種記載されたグミ科グミ属の落葉小高木で、紀伊半島を中心に分布し、東は三重県、西は四国にわたる(Makino 1926、靱山 1989)。種小名 *numajiriana* とヌマジリグミという別名は採集者の沼尻 好への献名である。原記載文では標本の産地と採集者名及び生育段階(Prov. KII, Mt. Koyasan: T. Makino! sterile. Yoshimi, Numajiri! Flowers and fruits; Prov. ISE, Mt. Komono: T. Makino!) は書かれているものの、ホロタイプに相当する標本が指定されていない(Fig. 3)。

SAPTの菅原コレクションに含まれるコウヤグミの標本(現在の菅原コレクションの標本番号16233)は沼尻 好が1920年5月24日に和歌山県高野山で採集したもので、通常の標本ラベルの他に、種名及び採集情報が墨字で書かれた紙片が付属している(Fig. 4)。このような紙片が付属している標本は菅原コレクション内でこれまでに確認さ

ⁱ 釧路市立博物館

れておらず、また、採集者である沼尻の名前が種小名、別名として用いられていることから、種の命名に関する標本である可能性があると考え、文献等の調査を行った。

文献調査の結果、先に述べたようにコウヤグミの記載文（Makino 1926）には、(1) 紀伊高野山：牧野富太郎採集（ステライル）、(2) 紀伊高野山：沼尻 好採集（花と果実）、(3) 伊勢菰野山：牧野富太郎採集、の3種類の標本が引用されていることが分かった。牧野による記載文の発表は1926年であることから、1920年に沼尻 好が和歌山県高野山で採集したコウヤグミの標本は、上記の(2)の標本の条件に相当すると考えられる。

また、牧野富太郎の標本が数多く収蔵されている首都大学東京牧野標本館（MAK）のタイプ標本データベースを確認したところ、1921年5月22日に沼尻 好によって紀伊高野山で採集されたコウヤグミの標本が、シタイプ（等価基準標本）として登録されていた。牧野標本館の標本にも、菅原コレクションと類似の形態の、種名等が墨字で書かれた紙片が付随していた（2012年10月確認：「牧野標本館タイプ標本データベース」http://ameba.i.hosei.ac.jp/bidp/makinocd/makino/prep_j/MAK199186.html）。

牧野富太郎による記載文に標本の採集年月日が記載されていないため確定はできないが、牧野標本館の標本と同様に、採集地、採集者が記載文と相違がないこと、また、タイプ標本であることを窺わせる紙片が付属していることから、菅原コレクションに所蔵されている Fig. 4 の標本は、コウヤグミのシタイプ標本のうちの1枚である可能性が高いと考えられる。

菅原コレクションの中では現時点で沼尻 好採集の標本は和歌山県で採集されたものを中心に60点以上あることが確認されているが、牧野富太郎採集のものはこれまでに確認されていない。コウヤグミを含む標本の交換・寄贈が菅原と沼尻の間でなされたものと推察されるが、その経緯や実態については更なる検討が必要である。

今後の課題

菅原繁蔵採集のまとまったコレクションは他に、菅原の死後、子息の寒川光太郎により寄贈された標本群が市立函館博物館に収められている。この中には樺太産の標本も多数あるが、シレトコアザミの標本は含まれていない（市立函館博物館 1996）。また、北大植物園の菅原コレクションには齋藤知賢、沼尻 好など、菅原以外が採集した標本が多く含まれるのに対し、市立函館博物館の標本はほとんどが菅原自身による採集のようである（市立函館博物館 1996）。なお、市立函館博物館の菅原標本は、他のコレクションとまとめて、分類順に標本番号がつけられており、やはり『樺太植物図誌』の番号とは一致していない。また、日本国内では江差高校にも標本約5000点が納められたとされているが（宗像 1998）、現時点での所蔵は不明であり、標本群の特徴も分からない。樺太庁博物館に残された菅原の標本は現在でもサハリンで保管されているという。

北大植物園に収められている菅原コレクションは、菅原自身が函館に保管されることを希望していたものの、諸般の事情により北海道大学に移管されたものである。この中にはシレトコアザミの他にも、菅原が「記載」した植物の標本が多数含まれる。これらの標本の実態を明らかにし、植物分類学者による検討が可能な状態にすることが必要である。

引用文献

- Kadota, Y. 2011 : Systematic studies of Asian *Saussurea* (*Asteraceae*) V. Two new species from eastern Hokkaido, Japan and Sakhalin, Russia. *Journal of Japanese Botany*, 86: 197-204.
- Makino, T. 1926 : A contribution to the knowledge of the flora of Japan. *The Journal of Japanese Botany*, 3: 17-20.
- 粕山泰一 . 1989 : グミ科 ELAEAGNACEAE. 日本の野生植物木本 II, p83-89. 平凡社, 東京 .
- 宗像和彦 . 1998 : 植物学者菅原繁蔵先生のこと—北方植物の研究に生涯をかけたその足跡—. 市立函館博物館研究紀要, 8: 1-16.
- 生物学教室(編). 1959 : 北海道学芸大学函館分校生物学教室所蔵菅原繁蔵収集腊葉標本目録 . 北海道学芸大学紀要(第二部), 10 (2) : 188-284.
- 市立函館博物館 (編) . 1996 : 市立函館博物館蔵品目録 8 植物篇 . 市立函館博物館, 函館 .
- 菅原繁蔵 . 1937a : 樺太の植物 . 菅原繁蔵樺太植物研究後援会, 豊原 (樺太) .
- 菅原繁蔵 . 1937b : 樺太植物図誌第1巻 . 樺太植物図誌刊行会, 東京 .
- 菅原繁蔵 . 1940 : 樺太植物図誌第4巻 . 樺太植物図誌刊行会, 東京 .

きく科 ASTERACEAE

たうひれん属 *Saussurea* DC.

1133. *Saussurea shiretokoensis* SUGAWARA Pl. of Saghal. p. 312 (1937) et Fl. E. & N.
Mit—rang. S. Saghal. p. 75 (1939); HONDA Nom. Pl. Jap. p. 369 (1939).

シレトコアザミ

【和名】 シレトコアザミ

多年草。単生，疎なる群落をなす。莖は直立，単一，上部には結節ある短軟毛を密生し下部は殆ど平滑なり，高さ最大なるものにて 20 cm に達す。葉は革質披針状，長楕圓形，鋭尖頭，鋭齒牙縁，脚葉は稍心脚中葉は急漸尖，上葉は披針形鋭尖頭楔脚全縁，下葉は長柄，基部殆ど抱莖，中葉は葉脚沿下して葉柄の翼をなす，上葉は無柄，兩面とも初めは蜘蛛毛を以て被はるも，成葉には下面には稍密生し葉面には散生するのみ。頭状花は多數團集して繖房花序をなす，花梗には褐色の短毛密生し，苞は葉狀披針形鋭尖頭全縁，小花梗の苞は鍼形なり，總苞片は 5 列，基部には線形の小苞を附屬す，外片 1 列は最も小形，2, 3 列は卵狀楕圓形鋭尖頭有尾，基部淡縁上部縁邊暗紫黑色にして，細毛並に縁毛を有す，内片 2 列は披針形，鋭頭平滑，裸出部は紫色なり，管狀花は紫紅色柱頭 2 裂棍形にして，結節を有す，冠毛は汚白色 8 月開花す。

【資料】 昭和 2. 8. 11. 採集。於，北知床半島，舟越草原地。No. 13993. No. 13993. 計 2.

【生態】 海濱草原地に生ず。

【産地】 南樺太 北知床半島舟越。

【分布】 樺太の特産。

Fig. 1 菅原 (1940) によるシレトコアザミの「記載文」。昭和 2 年 8 月 11 日に北知床半島舟越草原地で採集した標本 2 点 (標本番号はいずれも 13993) が資料として引用されている。

Elaeagnus Numajiriana MAKINO, nov. sp.

A shrub or small tree, deciduous, numerous-branched, the largest one attaining about 7 m. in height with the trunk $1\frac{1}{2}$ decim. in diameter. Branches griseo-fuliginous; branchlets closely and densely covered with dark-brown scurfs or fulvous and gilvous scurfs; those of this year covered with bay scurfs. Leaves alternate, petiolate, oval-ovate or ovate, attenuato-acuminate with an obtuse or acutish tip, rounded or truncato-rounded at the base, entire, green and thinly scattered with minute pale scurfs above, argentate with pale scurfs, thinly mixed with cinnamon scurfs, which are denser on the midrib, chartaceous, $1\frac{1}{2}$ -5 $\frac{1}{4}$ cm. long, $\frac{3}{4}$ -2 $\frac{3}{8}$ cm. broad; petiole 2-6 mm. long, canaliculate in front. Flower pedicellate, mostly 1 sometimes 2, axillary on the lower portion of the branchlets of this year, pendulous, covered with scurfs as is the pedicel. Calyx about 9-11 mm. long; the lowest part which is closely enclosed the ovary within much narrowed and fusiform or cylindrical-fusiform in form; the tube campanulato-cylindrical; lobes 4, patent, ovato-rounded, acute at the apex, $3\frac{1}{2}$ mm. long; pedicel 4-8 mm. long. Stamens in the throat of the calyx. Style slightly exerted. Pseudo-Drupe small, ellipsoid, scattered with minute pale scurfs on the whole surface, red in mature, 8 mm. long; pedicel gracile, gradually enlarged above, about 2 $\frac{1}{2}$ cm. long.

Nom. Jap. *Kôya-gumi*.

Hab. Prov. KII: Mt. Kôyasan (T. MAKINO! sterile; YOSHIMI NUMAJIRI! flowers and fruits.); Prov. ISE: Mt. Komono (T. MAKINO!).

This was first found and collected by me several years ago. Afterwards the materials in flower and fruit were kindly sent to me by Mr. YOSHIMI NUMAJIRI, Teacher of the Kôya Middle School, and in his memory I have named this new species.

Fig. 3 Makino (1926) におけるコウヤグミの記載文。最後の 6 行が標本に関する記述。

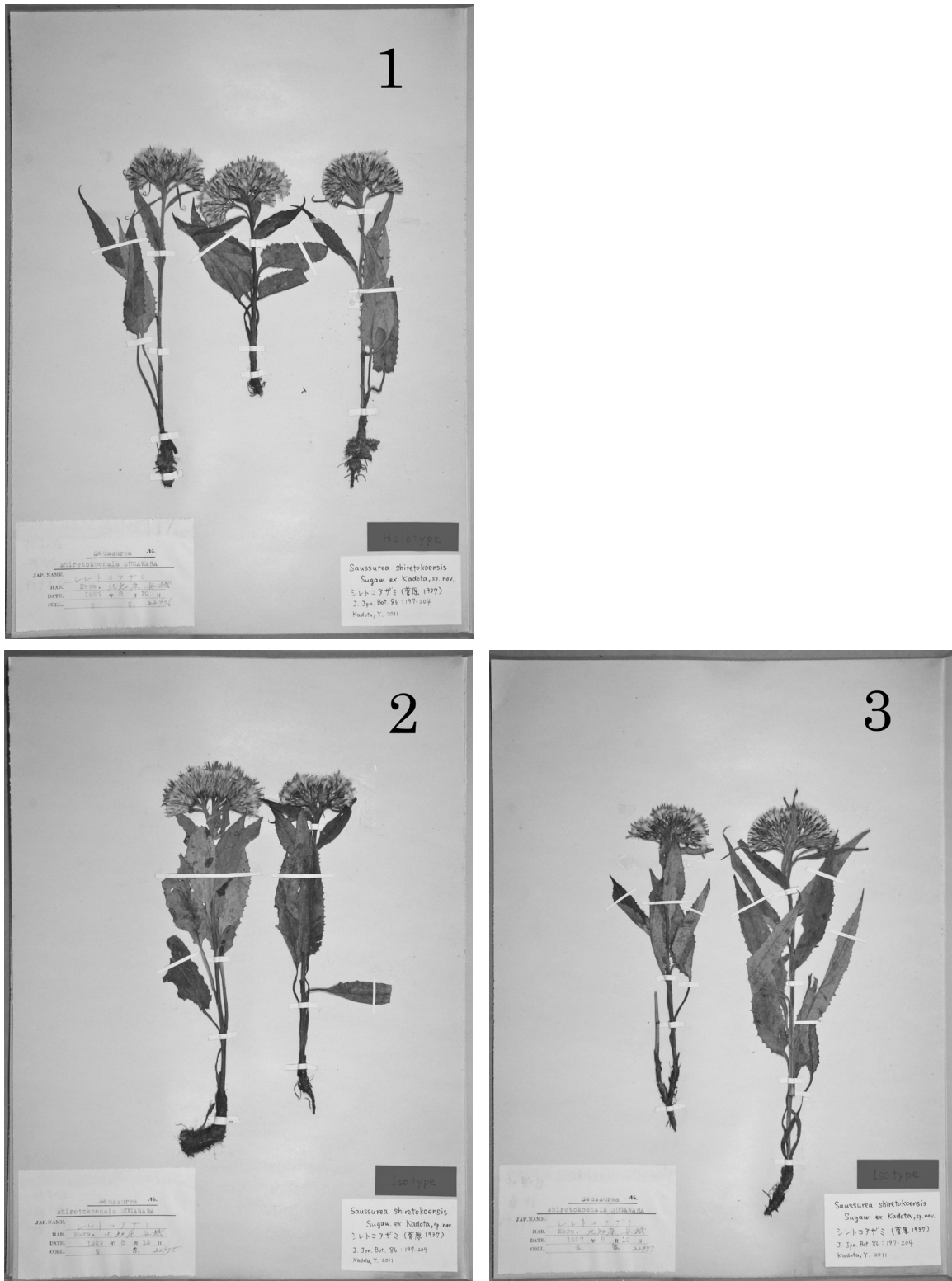


Fig. 2. Kadota (2011) で引用されたシロコザミのタイプ標本 (1:ホロタイプ [22976], 2:アイソタイプ [22975], 3:アイソタイプ [22977])。標本番号は 2 つ折りにした台紙の表紙にスタンプで記され、また、標本ラベルにもメモとして記されている。各標本の右下の 2 枚のラベル (タイプ標本情報) は筆者による。

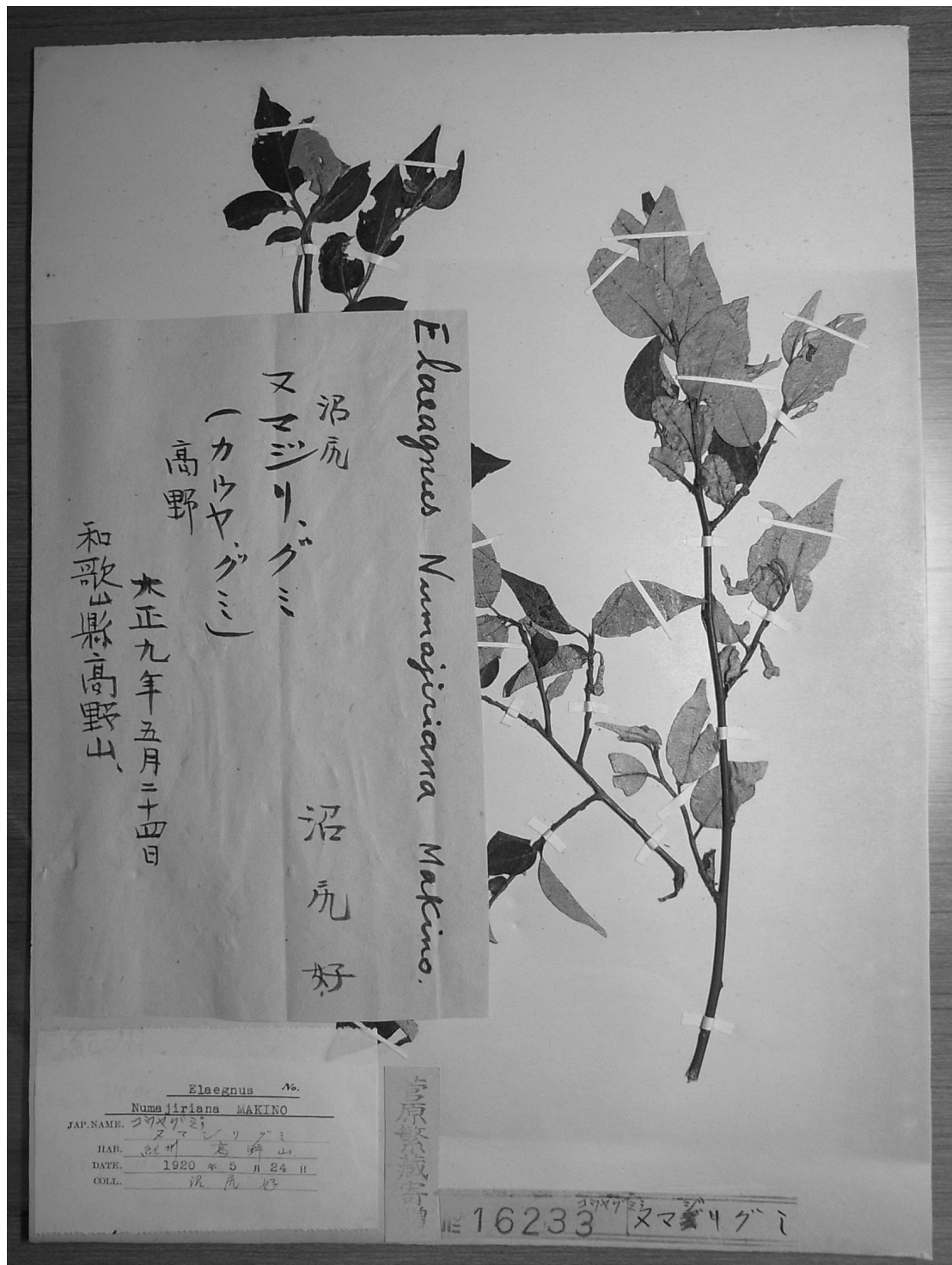


Fig. 4 SAPTで確認された、沼尻好が採集したコウヤグミの標本 [16233]。北大植物園において標本整理が行われた際に、2つ折りの台紙の表紙から標本番号、種名、「菅原繁蔵寄贈」の各部分が切り取られ、標本台紙に貼付されている。